

第1回 伊丹市環境基本計画（第3次）の策定に係るいたみ環境市民会議

会議録（要旨）

日 時：令和2年6月18日（木） 午前10時～12時

会 場：伊丹市立総合教育センター 2階講座室

出席委員：森委員・新宅委員・小田委員・永田委員（住友電気工業）・芝田委員（三菱電機）

1. 開会

- (1) 委嘱状の交付
- (2) 藤原市長あいさつ
- (3) 委員自己紹介
- (4) 事務局自己紹介
- (5) 資料の確認

次第

資料① 委員名簿

資料② 伊丹市環境基本計画（第3次）の策定について

資料③ 伊丹市環境基本計画（第3次）施策体系案のイメージ図

資料④-1 気候変動に対応したまち

2. 事務局より説明及び議論

- (1) 環境基本計画（第3次）の策定について

【資料②に基づき、事務局より説明】

- (2) 伊丹市環境基本計画（第3次）の施策体系案について

【資料③に基づき、事務局より説明】

- (3) 基本目標「気候変動に対応したまち」について

【資料④-1に基づき、事務局より説明】

- (4) 討議

《コロナ禍で変わった生活や価値観について》

（委員）情報はテレビのみ。在宅時間が増え、電気や水道の使用量が増加していると思う。家の中はきれいになった。

→（事務局）家の中がきれいになったということだが、ごみの量はどうか。

- (委員) ごみは、以前から減量しているので、それほど増えていない。
- (委員) リサイクルできない書類等をクリーンセンターに搬入したが、予約するのにも時間がかかった。かなりの量のごみになった。
- (委員) 断捨離などを実施されている方もたくさんいた。ごみの量がどのくらい増えているのか興味がある。
- (委員) 子どもたちの食に対するコロナ禍での影響に心を痛めている。コロナの影響で行き場のなくなった食品を譲り受けるなどの活動を行った。
- (委員) 事業者としては、受注が減少しているため、週4回しか稼働できない工場もある。出勤も5割を目標として、在宅勤務を進めた。出勤した職員も、分散させるため、部屋を分けるなどの対策を行い、また、換気のため窓を開けた状態で空調を使用しているため、省エネ対策はできない状況となっている。
- (委員) 通勤については、電車やバスが不安な職員については、時差出勤や車での通勤も可能とした。

《生ごみ1日120gにチャレンジについて》

- (事務局) 生ごみの1日排出量を120gにする取組をされていたそうだが、みんなが取り組みやすい目標や工夫の紹介などを広く普及するなどすると、より取り組みやすくなるか。
- (委員) はじめは大変だと思ったが、挑戦意欲がわいてきて、少しでも工夫するようになった。みんなが減らしていけば、パッカー車が1台減らせるかもしれないなどと考えたりした。

《宅配便の再配達について》

- (委員) ワーキングママの間では、ネット通販の利用者は多い。ただ、資源物の回収日には、この段ボールの量を減らせないかと思う。伊丹市の場合、段ボールはリサイクルされているからよいのかもしれないが。
- (委員) マンションには、宅配ボックスが設置されているところも多い。コンビニ受け取りもあるようだが、置き配バッグを利用している人の方が多いように思う。コンビニに行くよりは、自宅で受け取れる方がよりメリットがあるようだ。
- (委員) 宅配ロッカーや置き配、コンビニ受け取りなど、便利でなるべくエコに使用できるということを市民に知らせる必要があると思う。
- (委員) 注文するときに、置き場所や時間など指定できる。そういうひと手間で、再配達を防ぐこともできるのではないか。

《在宅勤務やリモート会議について》

- (事務局) 在宅勤務やリモート会議など、コロナの前から取り組まれているところもある

とは思うが、コロナ後も進んで継続されるのか。

- (委員) 在宅勤務等、今の体制は 6 月末までとなっている。会議は、リモートで行っている。資料共有もできるので、そういう会議のシステムに変わりつつある。事務所内の移動時間も短縮できるため、今後も続いていく気がする。
- (事務局) 移動が減ると、車の利用なども減るので、コロナによってそういう方向にシフトするスピードが加速化していくと、より環境負荷低減も進むのかもしれない。
- (委員) 教育関係、集合研修も e-ラーニングなどになっているものもある。
- (委員) 過渡期ではあると思う。設備・セキュリティなど環境整備の問題もある。

《再生可能エネルギーの導入及び電力の購入について》

- (事務局) 太陽光発電等再生可能エネルギーの導入状況や、排出係数の小さい電力会社への切り替えの状況について聞かせてほしい。
- (委員) 太陽光発電は一部設置しているが、発電量は照明に使用できる程度である。電気は関西電力から購入している。デマンド契約などをしている。
- (委員) 全社的には、太陽光の取組みや e-ファクトリーの取組などいろいろな取組はしているが、今のところ電力は関西電力、都市ガスは大阪ガスから購入している。最終的には、質よりも金額で安い方を選択している状況である。
- (委員) 家計を考えると少しでも安くなればと思えば関心はあるが、生活に直結している部分でもあるので、なかなか切り替えは難しい。何か、選択の指標になるようなキーワードが分かるように伝えてもらえれば、切り替えのきっかけになるのではないかと思う。判断基準が分からない。
- (委員) 小学校なども、学校教育の中で太陽光発電に取り組みだしたりするところもあり、案外、子どもたちの方が敏感だったりする。夏の自由研究で、電力会社のホームページから自宅の年間の電力量を見てみると、子どもたちの関心が高いかもしれない。
- (委員) これからのまちづくりを考えるうえでは、若年層を取り込んだ取組みが大事ではないか。
- (委員) 電力を別の会社に切り替えたが、検針票が届かないので使用量など確認できないので不便である。
- (委員) 今回、市民・事業者の取組を作成されているが、市民への PR はどれくらいできているのか。自治会に入らない人も多くなっている。市民がどれだけ知っているのかがいつも気になる。

《クールシェア、グリーンインフラ、クールスポットについて》

- (委員) 毎年アースデーにゴーヤの苗を配布し、グリーンカーテンを推進している。グリーンカーテンを設置している部屋では、他の部屋と室温が 3°C 違うという報告

例もある。

《災害時の電源確保について》

(事務局) 気候変動の適応策ということで、災害時、工場では予備電源等の備えがあると思うが、避難等が落ち着いたときにその電気を従業員に提供する、あるいは、周辺の市民に融通することは可能なのか、また、そういった検討をされているのか聞かせてほしい。

(委員) 非常用発電は工場ごとに設置している。伊丹製作所ではコーポレートの分だけの電源は確保している。工場については、冷却用など非常用発電がある。

(委員) 非常用発電はあるが、外部への開放はしていない。個人的には、災害時には地域に何かできたらと思う。

《大雨対策について》

(委員) 敷地内に容量 500t の雨水貯留槽を設置し、大雨の時にはポンプで貯留し、排水量を調節している。また、新たに第二排水溝を設置し、対策を強化した。

(委員) 特に、対策はしていないが、遊休地があり、雨水の浸透には寄与していると思う。

《伊丹の気象の変化として何か感じていること》

(委員) 最近、「酸性雨」について議論されなくなってきているのはなぜか。市でも計測していないとのことだが。

→ (事務局) かつて固定発生源となっていた工場等の改善により、排ガスに含まれていた、酸性雨の原因となる二酸化硫黄の濃度が低下しており、問題となることがなくなった。ただ、他の要因（大陸からの黄砂などに付着してくるなど）により、酸性雨がなくなったわけではないが、制御することは困難なため、現在では、国の研究機関等においてモニタリングされている程度となっている。

3. 閉会

今後の予定の案内

第 2 回 令和 2 年 6 月 25 日 (木) 午後 2 時～

伊丹市立総合教育センター 2 階講座室

第 3 回 7 月上旬～中旬を予定

以 上